## 九州大学学術情報リポジトリ Kyushu University Institutional Repository

## [005]決断科学表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/1917856

出版情報:決断科学. 5, 2018-03-30. 九州大学持続可能な社会のための決断科学センター

バージョン: 権利関係:

## 巻頭言

## 矢原 徹一

学生に勉強をさせたがります。たとえば「専門分野の枠 省が考えたとんでもない無茶ぶりに応えるために立案さ よって、専門分野の枠を超えて全体を俯瞰し社会的課題 は、人文社会科学、生命科学、理工学を統合した教育に 会科学を学ばせ、社会科学の学生には自然科学を学ばせ を超えて」という要請があると、自然科学の学生には社 で学生を育てようと考えました。大学の先生は、すぐに プログラムを立案するにあたり、私は徹底した現場主義 れた大学院博士課程5年間の教育プログラムです。この の解決に導く高度な人材を育てなさいという、文部科学 というような学際教育のコースを立案しがちです。 持続可能な社会を拓く決断科学大学院プログラム」 ら学び、その学びを普遍化してはじめて、社会を変えて を積むことが不可欠です。そして、地域や世界の現場か しかし、そのような机の上の勉強だけでは、社会的課題 いて、現場の課題解決に長期に関わり、現場の関係者の 環境・災害・健康・統治・人間という5つのテーマにつ 続可能な社会を拓く決断科学大学院プログラム」では 重ね、関係者と一緒になってプロジェクトを動かす経験 課題に関わる現場のさまざまな関係者と粘り強く対話を 的リーダーになるためには、現場の課題に継続して関わ の解決をリードする人材が育つはずがありません。社会 いく博士人材が育つでしょう。この考えにもとづき、「持 り、課題を頭だけでなく実体験を通じてしっかり理解し、

染するプロジェクトにしたいという思いがこめられてい 上げられた事例のさらに先をめざし、先生方の情熱が伝 ます。この名称には、NHK番組プロジェクトXで取り う教育方針を採用しました。これらの先生方がリードさ とで、楽しくやろうというねらいもありました。 ます。同時に、少し遊び心が入ったネーミングをするこ れているプロジェクトを「プロジェクト2」と呼んでい 方々と信頼関係を築きながら研究に取り組んでいらっ しゃる先生方を集め、これらの先生方の現場で学ぶとい

す。

情熱、

年前にこんなプログラムができたらと思い描いた夢が、

実行力の大切さを、身を持って学んでいます。

5

現実になって進行していることに、胸が熱くなる思いで

この特集号では、出水薫、高尾忠志、比良松道一、花 ともに、次の時代をになう地に足のついた人材養成につ 共有することで、さらに次のステージに進んでいけるで もありますが、この対談で語られている到達点と課題を まな課題は、少子高齢化に代表される構造的な問題とつ 協働を発展させ、地域の課題解決に少しでも貢献すると しょう。これからも各自治体の関係者の方々との対等な トでの協働経験を通じて、地域の未来に明るい希望と確 ながっているので、その解決は容易ではありません。し るケースも生まれてきました。自治体がかかえるさまざ 経過し、学生が取り組んだプロジェクトの成果が形にな かな手ごたえを感じています。もちろんさまざまな課題 かし、教員も学生も自治体関係者も、一連のプロジェク プログラムが本格的にスタートしてから4年あまりが

、九州大学教授・決断科学センター長、

とめたいと思います。

松泰倫という4人の先生方が中心になって、対馬市、長 にプロジェクトに取り組む中で、リーダーのビジョン、 学生たちは、継続的に地域に関わり、地域の方々と一緒 化学反応が生まれ、すばらしい学びの場が生まれました。 の情熱がつながり、そこに学生が関わることでさらなる ように、4人の先生方の情熱と、地域のリーダーの方々 形式でまとめました。対談をお読みいただければわかる 組まれてきた「プロジェクトZ」の経緯や成果を、対談 崎市、佐伯市、八女市という4つの自治体の現場で取り